

千葉県アマチュアレスリング協会【昭和 37 年(1962)昭和 52 年(1977)】

昭和 40 年、協会設立以来、会長を務めていた山口久太が、名誉会長になり。また、高橋誉富が会長に、今井博久が理事長に就任した。この年の 4 月、習志野高校に部が新設された。しかしながら、実施校 2 校に専門の指導者がいないという部活動が続き高校では低迷していた時代でもある。このような時、一般では、東京オリンピック大会で優勝した吉田義勝(日大)、世界選手権大会日本代表の石川忠男(東京日産自動車)が、国内外で活躍し、千葉県の面目を保ったといえる。昭和 43 年、メキシコオリンピック大会へ、磯貝頼秀(習志野高校)が週考された。千葉県より 3 人目の出場である。何よりも画期的なことは、日本レスリング史上初の高校生オリンピック選手であったことである。

当時、彼と同じレベルの選手は他にもいた。しかしながら軽・中量級に比べ、大きく世界から遅れている重量級に対し日本協会では、将来のレスリング界発展のためにも高校生の磯貝を抜擢した。いろいろな批評もあったが、結果的には、磯貝を大きく成長させた。また、習志野高校レスリング部創設 4 年自にしてその名を全国にとどろかせることになった。昭和 44 年、理事長に保岡陸朗が就任した。若潮国体を 5 年後に控え、高校生への指導者と、実施校の増加を図るべく、その第一を踏み出した。まず、逢坂敏明(東洋大)を八千代高校に迎え、部を新設し既存の佐倉高校には、渡辺喜彦(中央大)を迎えた。一年おいて、昭和 46 年、銚子商業高校に、中野由明(日本体育大)を、昭和 47 年には、高橋勇・武田三千男(日本体育大)と、茂原工業高校に久保繁蔵(国土館大)を、また、昭和 48 年には、ミュンヘンオリンピック代表、斉藤真(日本体育大)を浦安高校に迎えた。彼らは、高校生を指導し育成を計るとともに、国民体育大舎の一般選手として、大いに活躍をした。若湖周体においては、一般の部代表 8 名中、4 名を高校の教員が占めていた。若潮国体の 2 年前、選手の充実を計るべく、選手強化委員長に、石川忠男、高校選手強化担当に、渡辺喜彦を配した。特に高校生においては、夏休み、及び、休み、及び 4 月、5 月、9 月、10 月の土曜、日曜日等に合宿練習や、遠征試合を計画し実行した。宮城・青森・秋田の東北地方を中心にして、また、関東近辺では、栃木群馬・茨城・静岡へ、よく遠征した。また一般においては、韓国遠征試合やソピエトチームを招き親善試合を行うなど、着々と準備をしていった。若湖国体において、一般と高校の得点を合計した、総合成績では、0.5 点という僅少差ながら、三重県に次ぎ第 2 位であった。戦前においては、当然、優勝をねらっていた。しかしながら、磯貝、斉藤の金看板をはじめとして、かなりの得点が計算できる一般に対し高校生のインターハイでの低調な戦いぶりを思いおこすと、高校の代表 B 人中、小出日出夫(佐倉高)の優勝をはじめ 2 位 4 名というのは、本当によくやったと思われる。また、惜しまれるのは、一般チームのけん引者である伊藤勝春(千葉荷役海運)が、試合直前の怪我により出場不可能になってしまったことである。日本大学卒業後、千葉県にきて以来、全日本

遭手権や、国体において、常に上位入賞を果たし、同期のオリンピック代表の佐々木竜雄(秩田・自衛隊)とよく比較された。オリンピック大会まで、手が届かなかったが、そのレスリングセンスは抜群であり誰もが認めるところであった。彼に影響を受けた選手は多く、磯貝もそのうちの一人であった。また、一般の立場ながら、高校生をも実に熱心に指導した。彼の代打として起用された伊江邦男(早大)はよく健闘し代役を十分に果たした。

若潮国体は、千葉県にレスリングが発祥してから、25年間集大成といえるものであった。常に尽力を惜しまなかった今井博久が、若潮国体を待たずに、昭和45年5月に逝去されたことは本当に残念であり、県協会にとり大きな損失であった。今井氏をはじめ、多くの人々が、この日のために貢献した。中でも会長申高橋誉富は、協会員、指導陣の指導者として、また、高校生対しても、常に激励を忘れなかった。著書「教育ひとすじ」でわかるように、豪快さの中に、人情味あふれんばかりのやさしさと誠実さ、そして誰に対しても話をそらさない人柄に、感銘を受けないもりはなかった。

若潮国体以後、昭和49年、理事長に斎藤定雄が就任した。この年9月、テヘランでアジア大会が開催された。フリー、グレコローマシ両スタイル100kg級に斎藤真(浦安高校教員)・同100kg以上級に磯貝頼秀(ゼネラル石油)が出場した。磯貝はよく健闘して、フリースタイルに優勝を果たした。また、グレコローマンスタイルでは、内容差で惜しくも2位となり、両スタイル優勝を逃してしまった。残念なことは、決勝で開催国イランのフィラビと対戦し両者失格となった。審判の意図がありありとしていて、後味が悪く磯貝には気の毒な試合であった。この大会は、地元イラン選手に有利な、あまりにもひどいジャッジが繰り返され、諸国から抗議が続出した。また斎藤は、3回戦にソフテサライ(イラン)と対戦した。その試合、レフリーとジャッジ二人が斎藤のフォールを認めたが、チェアマン(ハンガリー)一人の「場外」という意見が通ってしまった。この判定に日本として国際試合では初めての「試合放棄」を行い、当時の大きなスポーツニュースとなった。10月、名雪正紀(銚子商業高校)が、国体グレコローマンスタイル75kg級で優勝した。また、翌50年には、平野代一(浦安高校)が、65kg級において、インターハイ2位。国体フリースタイルに優越した。このように、若潮国体以後、ようやくレスリング部新設校において、新しい芽がいぶき、成果があらわれはじめた。また、千葉県の高校より50年1月、飯生孝太郎(習志野高校)。51年、名雪正紀、52年、森明雄(佐倉高校)と3年連続で全日本高等学校レスリング米国連征チームに選抜され、大いに意気が高揚した。また、50年、52年3月に群馬県等とともに、カルフォルニア州に遠征し交換試合を行った。米国高校ナショナルチームの親善千葉大会をほとんど毎年開催しカルフォルニア州との千葉県との交換を遠征した年の8月に行うなど、高校生の海外交流も盛んに行われるようになった。昭和51年、理事長として杉山忠男が選出された。夏、第21回オリンピック大会が、モントリオールで開催された。磯貝頼秀がフリースタイル100kg以上級に出場した。磯貝は、豊富な試合経験で体得した老練な試

合運びと、速いタックルが効を奏し、日本重量級の壁といわれていた6位入賞を果たした。これは日本人として初めての快挙で、重量級に光明をともした。大学を卒業し、会社へ就職後4年、練習量の低下は避けられるものではない。しかし、日本レスリング選手の牽引者としてよく自覚し、日常生活においてもよく摂生していたことが、今日の彼になったものと思われる。一般に、重量級の選手は、選手生命が長いが本当に良い手本となった。帰国後、第31回国民体育大会(佐賀)においても優勝し7回連続優勝という偉業を成し遂げた。この機会を最後に、磯貝は静かに身を引いた。高校・大学・全日本町全てのタイトルを獲得するとともに、オリンピック大会3回、アジア大会2回、世界選手権大会3回、その他、多数の国際試合に出場し、その功績は大きい。振り返ってみると、10年間、日本の重量級の第一人者として、当然のように優勝し、彼の牙減にせまったのは、鶴田友美、一人であった。40年代は若潮国体と磯貝に代表されるであろう。昭和52年現在、レスリング部のある高等学校は8校を数える。50年4月、武田三千男が佐倉高校より転任し、成東高校に新設した。同年、後藤三郎が柏高校に新設した。しかしながら、憂えることは、対人的格闘競技が、全国的にも競技人口の減少傾向がみられることである。これは、千葉県レスリング界においても例外ではない。ここまで、実施校の増加は果されつつあるが、その中身をいかにしたら濃くすることができるであろうか、これからの課題であろう。

(1) 主な国際大会

○オリンピック大会

第18回大会 1964年 場所 東京

フリースタイル フライ級1位 吉田強勝(日大)

第19回大会 1968年 場所 メキシコ

フリー・グレコスタイル ヘビー級出場 磯貝頼秀(習志野高校)

第20回大会 1972年 場所 ミューヘン

フリースタイル 100kg以上級出場 磯貝頼秀(早大)

第21回大会 1976年 場所 モントリオール

フリースタイル 100kg以上級6位 磯貝頼秀(ゼネラル石油)

1回戦 プラコニ(アルゼンチン) フォール勝

2回戦 ゲリス(カナダ) 判定負

3回戦 ママズー(セネガル) フォール勝

4回戦 パーラ(ハンガリー) フォール負

○アジア大会

第6回大会 1979年 場所 パソコク

フリースタイル 100以上級2位 磯貝頼秀(早大)

1回戦 ピン(インド) 判定勝

2回戦 カーン(パキスタン) 判定勝

3回戦 フィラピ(イラン) 判定負
第7回大会 1974年 場所 テヘラン
フリー・グレコローマンスタイル100級出場 斎藤真(浦安高校教員)
フリースタイル 1回戦 マジェード(イラク) フォール勝
2回戦 パヤンムンフ(モンゴル) フォール負
3回戦 ソフテサライ(イラン) 試合放棄

グレコローマンスタイル 1回戦 ムシュターグ(イラン) 負傷棄権
フリースタイル100kg以上級1位 磯貝頼秀(ゼネラル石油)
1回戦 アーマド(イラク) フォール勝
2回戦 カーン(パキスタン) フォール勝
3回戦 フィラピ(イラン) 引分け
グレコローマンスタイル100kg以上級2位 磯貝頼秀
1回戦 アジアツムル(モンゴル) フォール勝
2回戦 カーン(パキスタン) フォール勝
3回戦 フィラピ(イラン) 両者失格

○世界選手権大会

1962年度 場所 トレド(アメリカ) ミドル級4位
石川忠男(東京日産自動車)
1973年度 場所 テヘラン(イラン) フリースタイル
100kg以上級磯貝頼秀(ゼネラル石油)
1974年度 場所 イスタンブール(トルコ) フリースタイル
100kg以上級6位磯貝頼秀(ゼネラル石油)
100kg級斎藤真(浦安高校教員)
1975年度 場所 ミンスク(ソビエト) フリースタイル
100kg以上級磯貝頼秀(ゼネラル石油)
100kg級斎藤真(浦安高校教員)

○モンゴル国際レスリング大会 昭和50年(1975)3月 場所 ウランパートル

団長 福田健三(中大OB)
監督 杉山忠男(法大OB)
コーチ 宮野秀文(早大OB)
マネジャー 藤崎敏次(佐倉高校OB)
52kg級 斎藤修(早大)
57kg級 石井澄男(東海大)
62kg級 三須尚紀(早大)
68kg級 石渡三津夫(佐倉東高校教員)

74 kg級 小出日出夫(早大)
82 kg級 大橋利通(八千代市役所)
90kg 級 小松崎六合利 (中大 OB)
100 kg以上級 磯貝煩秀 (ゼネラル石油)

※ 山口久太氏の尽力により、千葉県選手団を中心とした構成となり、日本協会はこれを、日本代表選手と認めた。参加国は、ほとんど共産国であった。

◎世界ジュニア選手権大会 昭和 50 年(1975)8 月 場所 ハスコポ (ブルガリア)
グレコローマンスタイル 82kg 級出場 小出日出夫(早大)

◎環太平洋沿岸地域ジュニア選手権大会 昭和 51 年(1976)3 月 場所 パンクーパー
(カナダ)

フリースタイル 62 kg級 2 位 平野代一(浦安高校)

(2) 主な海外交流試合

全日本高等学校米国遠征

第 8 回 昭和 42 年(1967)12 月 選手 磯貝頼秀(習志野高校)
第 15 回 昭和 50 年(1975)1 月 コーチ 渡辺喜彦(依倉高校教員)
選手 飯生孝太郎 (習志野高校)
第 16 回 昭和 51 年(1976)1 月 選手 名雪正紀(銚子商業高校)
第 17 回 昭和 52 年(1977)1 月 コーチ 武田三千男 (成東高校教員)
選手 森明雄(佐倉高校)

◎関東高等学校選抜ハワイ遠征 昭和 44 年 3 月 選手 桧貝孝二郎(佐倉高校)

◎関東高等学校選抜カルフォルニア遠征

昭和 53 年 3 月 コーチ 高橋 勇(八千代高校教員)
選手 須藤勉(佐倉高校) 横山二郎・平野代一(浦安高校)
大塚登 (八千代高校)
昭和 52 年 3 月 役員 中村克凡・長谷川昌雄 (佐倉市役所)
選手 嶋田政彦(習志野高校) 梅田歳雄(茂原工業高校)
清水俊明(浦安高校)

◎日中友好親善試合 昭和 41 年(1966)11 月 場所 中国

団長 山口久太、秘書 鈴木武男、選手 伊藤勝春 (千葉荷役)

◎韓国遠征 昭和 47 年(1972)11 月 選手構成 若潮国体一般候補選手
試合成績 3 戦 3 勝

◎日・ソ親善試合千葉大会 昭和 48 年(1973)4 月 18 日 会場 佐倉高校体育館

試合成績	千葉県選抜	2-4 (2 分)	グルジア選抜 CCCP
52 kg級	只縄治幸(中大)	1-4	○ミケラーゼ
57kg 級	○高橋勇(八千代高教)	2-1	ポルジギニーゼ

52kg 級	武田三千男(佐倉高教)	2 R	◎N・ホハシピリ
68 kg級	石渡三津夫(早大)	2-2	クワレラジピリ
74 kg級	伊江邦男(早大)	2-2	A・ホハシピリ
82 kg級	○伊藤勝春(千葉荷役)	4-2	マルザギシビリ
90 kg級	小松崎六合利(ピジコン)	1 R	◎マルシヤニア
100 kg級	斎藤真(浦安高教)	1 R	◎テデアシピリ

※ ミューヘン五輪の金メダリストストのテデアシピリと若手で編成した。ソビエト、グルジア選抜に対し、千葉県は、若潮国体の“予備軍”で対抗した。全日本選抜・学生選抜チームの完敗ぶりを見ると、千葉県チームはよく健闘し大会は盛況のうちに終了した。

(3) 国民体育大会

第 17 回大会 (昭和 37 年) 開催地 岡山県

一般フリースタイル総合 4 位

一般フリースタイル ミドル級 1 位 石川忠男 (東京日産自動車)
ヘビー級 3 位 渡辺 修 (明大 OB)

第 18 回大会 (昭和 38 年) 開催地 山口県

一般フリースタイル フライ級 1 位 吉田義勝 (日大)

第 19 回大会 (昭和 39 年) 開催地 新潟県

一般フリースタイル フライ級 1 位 吉田義勝 (日大)
ミドル級 1 位 石川忠男 (東京日産自動車)

第 20 回大会 (昭和 40 年) 開催地 岐阜県

天皇杯順位 7 位 一般フリースタイル総合 2 位
一般フリースタイル ウェルター級 1 位 伊藤勝春 (千葉荷役)
ミドル級 2 位 田代俊郎 (中大 OB)
ライトヘビー級 2 位 石川忠男 (東京日産自動車)
ヘビー級 2 位 宮野秀文 (早大)
フライ級 3 位 鈴木定之 (日大 OB)

第 21 回大会 (昭和 41 年) 開催地 大分県

一般フリースタイル パンタム級 3 位 宮内孝憲 (中大職員)

第 22 回大会 (昭和 42 年) 開催地 埼玉県

一般フリースタイル ウェルター級 2 位 伊藤勝春 (千葉荷役)
ヘビー級 3 位 石川忠男 (東京日産自動車)

一般グレコローマンスタイル ミドル級 1 位 田代俊郎 (中大職員)

高校 73kg 以上級 2 位 磯貝頼秀 (習志野高校)

第 23 回大会 (昭和 43 年) 開催地 福井県

天皇杯順位 2 位 一般フリースタイル総合 1 位、同グレコローマン総合 7 位

一般フリースタイル ウェルター級 1 位 伊藤勝春 (千葉荷役)
ヘビー級 1 位 石川忠男 (東京日産自動車)
フェザー級 2 位 池野哲也 (中大)
一般グレコローマン フライ級 3 位 逢坂敏明 (敬愛短大職員)
ライトヘビー級 3 位 小松崎六合利 (中大)

第 24 回大会 (昭和 44 年) 開催地 長崎県

一般フリースタイル総合 6 位、同グレコローマン 総合 8 位
一般フリースタイル 82 kg 級 2 位 伊藤勝春 (千葉荷役)
100 kg 以上級 2 位 磯貝頼秀 (早大)
一般グレコローマンスタイル 57 kg 級 3 位 逢坂敏明 (八千代高校教員)
74 kg 級 3 位 田代俊郎 (中大職員)

第 25 回大会 (昭和 45 年) 開催地 岩手県

一般フリースタイル 100 kg 以上級 1 位 磯貝頼秀 (早大)
一般グレコローマンスタイル 57 kg 級 3 位 渡辺喜彦 (佐倉高校教員)
90 kg 級 3 位 小松崎六合利 (中大)

第 26 回大会 (昭和 46 年) 開催地 和歌山県

天皇杯順位 7 位 一般フリースタイル総合 2 位
一般フリースタイル 100 kg 以上級 1 位 磯貝頼秀 (早大)
74 kg 級 3 位 矢野修 (中大)
82 kg 級 3 位 小松崎六合利 (中大)
90 kg 級 3 位 伊藤勝春 (千葉荷役)
一般グレコローマンスタイル 57 kg 級 3 位 渡辺喜彦 (佐倉高校教員)
高校フリースタイル 87 kg 級 3 位 増田智之 (佐倉高校)
高校グレコローマンスタイル 52 kg 級 3 位 茶田隆行 (習志野高校)

第 27 回大会 (昭和 47 年) 開催地 鹿児島県

天皇杯順位 8 位、一般フリースタイル総合 5 位、高校グレコローマンスタイル総合 5 位
一般フリースタイル 100 kg 以上級 1 位 磯貝頼秀 (早大)
90 kg 級 2 位 伊藤勝春 (千葉荷役)
高校グレコローマンスタイル 52kg 級 2 位 茶田隆行 (習志野高校)
48 kg 級 3 位 斎藤修 (佐倉高校)
70 kg 級 3 位 小出日出夫 (佐倉高校)
高校フリースタイル 81 kg 級 3 位 増田智之 (佐倉高校)

第 28 回大会 (昭和 48 年) 開催地 千葉県

天皇杯順位 2 位、一般フリースタイル総合 2 位、高校フリースタイル総合 5 位
高校グレコローマンスタイル総合 2 位.

一般フリースタイル 100 kg級 1 位 斎藤真(浦安高校教員)
100 kg以上級 1 位 磯貝頼秀(ゼネラル石油)
57 kg級 2 位 高橋勇(八千代高校教員)
90 kg級 2 位 伊江邦男(早大)

一般グレコローマンスタイル 48 kg級 2 位 久保繁蔵(茂原工業高校教員)
高校フリースタイル 56 kg級 2 位 石井澄男(佐倉高校)
87 kg以上級 2 位 菅谷秀一(茂原工業高校)
60 kg級 3 位 飯生孝太郎(習志野高校)
高校グレコローマンスタイル 75 kg級 1 位 小出日出夫(佐倉高校)
48 kg級 2 位 門山英夫(佐倉高校)
81 kg級 2 位 古橋正俊(習志野高校)

第 29 回大会(昭和 49 年) 開催地 茨城県

天皇杯順位 8 位、一般フリースタイル総合 2 位、高校フリースタイル総合 7 位
一般フリースタイル 100 kg級 1 位 斎藤真(浦安高校教員)
100 kg 句以上級 1 位 磯貝頼秀(ゼネラル石油)
68 kg級 2 位 石渡三津夫(早大)
57 kg級 3 位 三須尚紀(早大)
高校フリースタイル 48 kg級 3 位 平岩喜光(習志野高校)
65 kg級 3 位 平野代一(浦安高校)
87 kg級 3 位 山浦秀幸(佐倉高校)

高校グレコローマンスタイル 75 kg級 1 位 名雪正紀(銚子商業高校)

第 30 回大会(昭和 50 年) 開催地 三重県

成年フリースタイル 100 kg以上級 1 位 磯貝頼秀(ゼネラル石油)
100 kg級 2 位 斎藤真(浦安高校教員)
少年フリースタイル 65 kg級 1 位 平野代一(浦安高校)
少年グレコローマンスタイル 60 kg級 3 位 矢後一成(習志野高校)
87 kg級 3 位 加茂敏雄(習志野高校)

第 31 回大会(昭和 51 年) 開催地 佐賀県

成年フリースタイル 100 kg以上級 1 位 磯貝頼秀(ゼネラル石油)
52 kg級 3 位 斎藤修(早大)
成年グレコローマンスタイル 100 kg級 1 位 斎藤真(浦安高校教員)
68 kg級 3 位 西村盛正(群馬新聞社)
少年フリースタイル 75 kg級 2 位 森明雄(佐倉高校)

第 32 回大会(昭和 52 年) 開催地 青森県

成年グレコローマンスタイル 100 kg級 1 位 石渡真(旧姓斎藤)

少年フリースタイル 81 kg級 3 位 鈴木真二 (八千代高校)

少年グレコローマンスタイル 65 kg級 3 位 森田正明 (八千代高校)

(4) 全国高等学校総合体育大会

昭和 37 年度 会場 広島市

個人対抗戦 61 kg級 準決勝 林武彦(佐倉高校)

昭和 39 年度 会場 兵庫県

学校対抗戦 5 位 佐倉高校

個人対抗戦 58 kg級 4 位 安藤英世 (佐倉高校)

昭和 42 年度 会場 福井県

個人対抗戦 73 kg以上級 1 位 磯貝頼秀 (習志野高校)

昭和 43 年度 会場 広島県

個人対抗戦 73 kg以上級 1 位 磯貝頼秀 (習志野高校)

昭和 45 年度 会場 静岡県立焼津水産高校

学校対抗戦 5 位 佐倉高校

昭和 46 年度 会場 徳島県池田高校

個人対抗戦 60 kg級 4 位 青柳修二 (佐倉高校)

昭和 49 年度 会場 福岡県大牟田市民体育館

個人対抗戦 60 kg級 2 位 飯生孝太郎 (習志野高校)
65 kg級 3 位 平野代一(浦安高校)

昭和 50 年度 会場 日本大学構堂

個人対抗戦 65 kg級 2 位 平野代一(浦安高校)

昭和 51 年度 会場 新潟市民体育館

学校対抗戦 5 位 八千代高校

(5) 関東高等学校選手権大会

第 1 回大会(昭和 30 年) 会場 水戸市営体育館

54kg 級 1 位 大谷俊春 (佐倉第一高校)

52 kg級 2 位 伊藤敏夫 (佐倉第一高校)

62 kg級 3 位 村島勝利 (佐倉第一高校)

第 2 回大会(昭和 31 年) 会場 青山レスリング会館

69 kg級 2 位 内田勝己 (佐倉第一高校)

52 kg級 3 位 小林 敬 (佐倉第一高校)

58 kg級 3 位 桜井 豊 (佐倉第一高校)

第 4 回大会(昭和 33 年) 会場 藤沢市秩父宮記念体育館

55 kg級 2 位 宮内孝憲 (佐倉第一高校)

61 kg級 2 位 金子秀雄 (佐倉第一高校)

65 kg級 3 位 鹿熊勝昭 (佐倉第一高校)

- 第6回大会(昭和35年) 会場 群馬大学学芸学部体育館
65kg級1位 三須昌雄(佐倉第一高校)
- 第9回大会(昭和38年) 会場 茨城県営体育館
61kg級3位 林 武彦(佐倉高校)
- 第10回大会(昭和39年) 会場 横浜公園体育館
団体総合3位 佐倉高校
58kg級1位 安藤英世(佐倉高校)
52kg級3位 関根重夫(佐倉高校)
- 第11回大会(昭和40年) 会場 栃木県営体育館
52kg級1位 中村孝治(佐倉高校)
- 第12回大会(昭和41年) 会場 国立競技場霞ヶ丘体育館
73kg級2位 福田正勝(習志野高校)
52kg級3位 三須俊雄(佐倉高校)
- 第13回大会(昭和42年) 会場 甘楽農業高校体育館
61kg級2位 青柳邦忠(佐倉高校)
73kg以上級2位 磯貝頼秀(習志野高按)
73kg級3位 小松崎六合利(習志野高校)
- 第14回大会(昭和43年) 会場 茨城県立スポーツセンター
73kg以上級1位 磯貝頼秀(習志野高校)
55kg級2位 石渡康郎(佐倉高校)
- 第15回大会(昭和44年) 会場 横浜市公園体育館
団体総合2位 佐倉高校・習志野高校
73kg級1位 伊江邦男(佐倉高校)
73kg以上級1位 吉野和茂(習志野高校)
48kg級2位 只縄治幸(佐倉高校)
61kg級2位 伊藤亘男(習志野高校)
48kg級3位 内海一行(習志野高校)
55kg級3位 石渡三津夫(佐倉高校)
61kg級3位 桧貝孝二郎(佐倉高校)
69kg級3位 岡部幸夫(習志野高校)
- 第16回大会(昭和45年) 会場 佐倉市立佐倉中学校体育館
団体総合2位 佐倉高校
同3位 習志野高校
75kg級1位 五十風繁(佐倉高校)
58kg級2位 石渡三津夫(佐倉高校)
60kg級3位 浜田 洋(習志野高校)

65 kg級 3 位 久保木達夫 (習志野高校)

第 17 回大会 (昭和 46 年) 会場 飯生市民体育館

48 kg級 3 位 石井清隆 (八千代高校)

60 kg級 3 位 黒川弘一 (佐倉高校)

第 18 回大会 (昭和 47 年) 会場 栃木県月見ヶ丘体育館

48 kg級 2 位 斎藤修 (佐倉高校)

75 kg以上級 2 位 増田智之 (佐倉高校)

65 kg級 3 位 谷 久夫 (八千代高校)

第 19 回大会 (昭和 48 年) 会場 オリピック記念青少年総合センター

48 kg級 2 位 相川清五 (習志野高校)

56 kg級 3 位 石井澄男 (佐倉高校)

60 kg級 3 位 飯生孝太郎 (習志野高校)

※なお、こり年より、各都県代表 1 名、合計 7 名において、グレコローマンスタイルの試合が、バッドマーク方式で実施されるようになった。若湖国体候補選手の主力を出場させた。

成績は下記の通りである。

65 kg級 1 位 矢後正直 (習志野高校)

70 kg級 1 位 谷 久夫 (八千代高校)

75 kg級 1 位 小出日出夫 (佐倉高校)

第 20 回大会 (昭和 49 年) 会場 笠間市立体育館

フリースタイル

70 kg級 1 位 平野代一 (浦安高校)

60 kg級 2 位 飯生孝太郎 (習志野高校)

グレコローマンスタイル

75 kg級 1 位 名雪正紀 (銚子商業高校)

第 21 回大会 (昭和 50 年) 会場 松井田高校体育館

フリースタイル

48 kg級 3 位 須藤 勉 (佐倉高校)

グレコローマンスタイル

56 kg級 1 位 横山二郎 (浦安高校)

60 kg級 1 位 水嶋敏一 (銚子商業高校)

70 kg級 1 位 平野代一 (浦安高校)

75 kg級 1 位 名雪正紀 (銚子商業高校)

第 22 回大会 (昭和 51 年) 会場 飯生市民体育館

フリースタイル

75 kg級 2 位 森 明雄 (佐倉高校)

70 kg級 3 位 三須照久 (佐倉高校)
第 23 回大会 (昭和 52 年) 会場 藤沢高校体育館
グレコローマンスタイル

70 kg級 1 位 大越哲朗 (銚子商業高校)
75kg 級 1 位 清水俊明 (浦安高校)

(6) 47・48 年度 (若潮国体) 協会役員表

名誉会長 山口久太
会 長 高橋誉富
副 会 長 相原秀一郎、福田健三
理 事 長 保岡陸朗
理 事 佐藤 侑、倉石昇、杉山忠男、愛知貞雄、石川忠男、宮内孝憲、
" 長谷川信雄、宮野秀文、渡辺喜彦、中野由明
事 務 局 斎藤定雄

(7) 若潮国体のメンバー表 F(フリースタイル) G (グレコローマンスタイル)

一般の部

監 督 石川忠男 (東京日産自動車)
G48 kg級 久保繁蔵 (茂原工業高校教員)
F57kg 級 高橋 勇 (八千代高校教員)
F62 kg級 武田三千男 (佐倉高校教員)
G74 kg級 矢野 修 (ビジコン)
G82 kg級 岡部幸夫 (中大)
F90 kg級 伊江邦男 (早大)
F100 kg級 斎藤真 (浦安高校教員)
F100 kg以上級 磯貝頼秀 (ゼネラル石油)

高校の部

監 督 逢坂敏明 (八千代高校教員)
G48 kg級 門山英夫 (佐倉高校)
F52 kg級 石井澄男 (佐倉高校)
F60 kg級 飯生孝太郎 (習志野高校)
F65 kg級 谷久夫 (八千代高校)
G70 kg級 矢後正直 (習志野高校)
G75 kg級 小出日出夫 (佐倉高校)
G81 kg級 古橋正俊 (習志野高校)
F87 kg以上級 菅谷秀一 (茂原工業高校)